

表題:JCAABE まちづくりファシリテーター養成講座実施委員会  
「建築系まちづくりファシリテーター養成講座」の開発と実践

この度は、JCAABE まちづくりファシリテーター養成講座実施委員会「建築系まちづくりファシリテーター養成講座の開発と実践」が日本建築学会教育賞(教育貢献)を賜り、大変光栄に存じます。JCAABE 日本建築まちづくり適正支援機構は良質な建築・美しいまちづくりを目指して設立された社会課題解決型の一般社団法人です。2017年にまちづくりを理解し活躍する建築家・建築士を増やすべく、研鑽のためのセミナーと認定まちづくり適正建築士の資格を設けました。まちづくりには様々な立場の方が関わるため、市民・住民と専門家・行政を繋ぐまちづくりファシリテーターは大切に、その人材育成が求められています。これには、何らかの専門性を軸にして、様々な方と繋がるT字型人材が必要であり、2019年～20年に文部科学省の委託事業として「まちづくりファシリテーター養成講座」の開発と実践を行いました。シラバスと教科書の作成、オンディマンドの動画教材を作成し、3つの協力専門学校からスタートし、今では8校で実施すると共に、大学でも研究室単位で採用されるようになってきました。これを開かれた形で誰でもが受講できるようオンラインを用いた社会人、学生向けのプログラムを用意しました。ご協力いただいた専門学校の先生方、教科書の執筆者、オンディマンド教材作成にご協力いただいた専門家の方々に心から感謝申し上げます。

この養成講座の特徴としては、

- ① 建築デザインや都市計画系科目に加え、修復・防災、不動産やエリアマネジメント、合意形成の手法などが含まれる履修内容で、これらは企業や大学へのヒアリング調査からアレンジされました。
- ② 全30コマで構成され、半分を座学、半分を実践とし、双方の内容を関連づけたシラバスにしたこと。実践には見学、演習、ワークショップ実習が取り入れられたこと。
- ③ 総合としてのまちづくりフィールドワークショップは、スマホの画像映写を用いた調査を行い、話し合いの中で方向性を見出す形をとると共に、講評会では行政の方も参加し、客観性のある視点を得るようにしたこと
- ④ 全30コマは、一年間で履修する、半年で履修する、夏休み等で集中履修するカリキュラムなどのメニューを用意し、学校の事情により選択できるようにしたこと。
- ⑤ 教科書は、初学者も理解しやすいよう漫画を入れ、「建築系まちづくり入門」(学芸出版社)が出版され、書店で誰でもが手に取ることができるようにしたこと。
- ⑥ 履修科目は動画を用いて、オンディマンドで受講できるよう配慮し、事前に視聴した上で授業を受けるという反転授業等、様々な授業形式に対応できるよう工夫したこと。
- ⑦ オンラインを用いて、離れた学校との合同授業が可能となり、地域性も含めた学びの機会が生まれていること。
- ⑧ 受講生のモチベーションとして、履修が完了した受講生には履修証の発行をすると共に、希望すればJCAABEの準会員として登録ができるようにしたこと。
- ⑨ 登録まちづくりファシリテーターは、2年の実務と一級建築士の取得により、認定まちづくり適正建築士を取得できるキャリアストーリーを設けたこと。

この活動は海外にも繋がり、2021年～22年文化庁委託事業として「エジプト、カイロ旧市街の保存まちづくり/住民ワークショップ」を行いました。この中でエジプトの建築家や専門家に対して、まちづくりファシリテーター講座を行い、その知識を得た上で、住民参加のワークショップを行いました。カイロ旧市街は街自体が世界遺産であるにも関わらず、空き建物の風化や不法建築などの問題が生じる中、この活動を通して住民が都市と建築の価値について理解し、保存に繋がる意識の醸成を図りました。

この受賞は、これまでのJCAABEの地道な活動への評価をいただいたものとありがたく受けとめると共に、更に身を引き締め、建築における利用者参加、まちづくりにおける住民参加を推し進め持続可能性のある建築まちづくりを推し進めると共に、話し合いの場と機会を作り、民主的で良質な建築、美しいまちづくり活動を続けていく所存です。